

令和7年食中毒発生状況について

令和8年3月25日、厚生労働省 厚生科学審議会(食品衛生監視部会)において報告されました令和7年食中毒発生状況について、概要を説明いたします。

1 令和7年食中毒発生状況

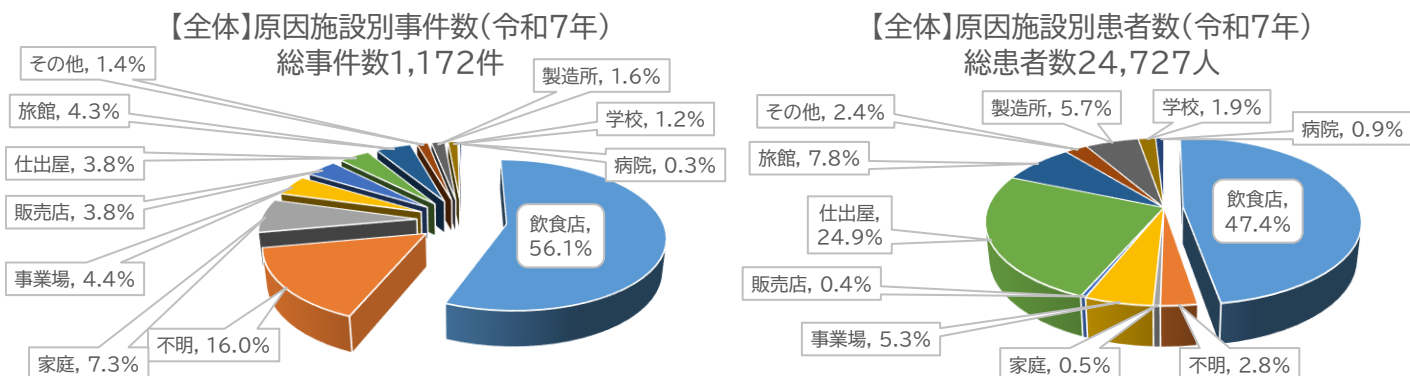
食中毒事件数は**1,172件**で、前年に比べ135件増加し、**患者数は24,727人(死者2人含む)**で前年に比べ10,498人増加しました。令和7年の大規模食中毒(500人以上)の事例は、「仕出屋で製造提供された弁当」の2件でした。死者の報告された食中毒事例は2件で、細菌(腸炎ビブリオ)と自然毒(植物性自然毒)でした。

	都道府県	発病年月日	原因施設種別	原因食品名	病因物質種別	患者数	死者数	接食者数	死者年齢
1	一宮市	2025/1/30	仕出屋	不明(1月30日~2月1日までに製造された弁当)	ノロウイルス(ウイルス)	769	0	1,805	-
2	兵庫県	2025/2/8	仕出屋	令和7年2月8日(土)に提供された弁当	ノロウイルス(ウイルス)	2,307	0	4,832	-
1	旭川市	2025/8/25	仕出屋	令和7年8月25日(月)に原因施設で調理し、提供された弁当	腸炎ビブリオ(細菌)	144	1	692	男:60~69歳
2	岡山県	2025/6/28	家庭	イヌサフラン	植物性自然毒(自然毒)	1	1	1	女:70歳~

2 原因施設別食中毒発生状況

原因施設が判明した事例のうち、**事件数では飲食店が658件**(前年より110件増加)と一番多く、次いで、不明187件、家庭85件、事業場51件、旅館50件、販売店45件の順となりました。

患者数においても、飲食店が11,724人(前年より3,068人増加)で最も多く、次いで、仕出屋6,146人、旅館1,922人、製造所1,407人、事業場1,315人、不明703人の順となりました。



3 病因物質別食中毒発生状況(TOP3)

病因物質別に見ると、**事件数が最も多かったものはノロウイルス462件**(前年より186件増加)、次いで、アニサキスの280件(同50件減少)、カンピロバクターの220件(同12件増加)となりました(前年はアニサキス、ノロウイルス、カンピロバクターの順)。

患者数は、ノロウイルスが最も多く18,566人(前年より9,910人増加)で、全体(24,727人)の75.1%を占めています。(参考資料 令和8年3月25日 厚生労働省 厚生科学審議会(食品衛生監視部会)食中毒発生状況より抜粋)



登録衛生検査所
株式会社 中央微生物検査所
環境サービス事業部

<http://www.chubi.co.jp/>
E-mail shoku@chubi.co.jp

本 社
〒536-0008 大阪市城東区関目5丁目22番23号
TEL.(06)6939-1044
FAX.06-6939-2350

東京営業所
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目3番10号コスモタワービル10階
TEL.(03)5472-7551
FAX.03-5472-7552

